

19世紀後半のアメリカの女性文学にみる女性の仕事観

—自己実現のための仕事と家庭—

The perspective on the work of women in American women's literature in the late nineteenth
—Work for the self-realization and family—

杉山 真弓

Mayumi Sugiyama

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 博士後期課程

キーワード：仕事，女性，自己実現

Key words : Work, Women, Self-realization

1. 研究目的

本研究の目的は 19 世紀後半のアメリカの女性作家による文学作品に的を絞り，文学にみられるアメリカの中産階級の女性の仕事観を追求することである。本研究が明らかにすべき問題点としては次の 3 点が考えられる。

1. 19 世紀後半のアメリカの中産階級の女性が仕事をどう考えていたか。自己実現やアイデンティティの確立といった思想が読み取れるかどうかを「仕事 (work)」と「労働 (labor)」をキーワードにして考察する。

2. 上記の時代の仕事観を形成していた社会的・一般的な概念，とりわけ家庭について。仕事と家庭の両立がどう描かれていたかを中心に考察する。

3. 「工場労働者」に対する中産階級の女性の意識について。

1 つ目の問題は，具体的な文学作品の中で女性が仕事をどのように考えていたかを追及することで考えていく。19 世紀後半の女性が「labor」とみなされる単純労働，賃金労働にも経済的な目的以外のもの，生きがいや自己表現という意識を持っていたということを，作品を読み解くことによって証明していく。2 つ目は，19 世紀後半の女性の仕事観，および家庭観を形成していた概念を，ジェンダー論やフェミニズム理論に基づいて考察していく。3 つ目は，「工場労働者」を中産階級の女性がどのようにとらえていたかを，具体的な文学作品を読み解くことによって追及する。

予想される結果として，「19 世紀後半のアメリカの女性文学には，女性が仕事をアイデンティテ

ィの確立や自己実現の手段としてとらえるという意識が読み取れる」という仮説を立てている。この仮説を立証することにより，従来のアメリカ文学研究に新たな視点を与えることが本研究の意義であると考えられる。

2. 研究実施内容

本年度は Marietta Holley および Louisa May Alcott の作品を中心に研究を実施した。Marietta Holley については，彼女の代表的作品である，主婦 Samantha を主人公にしたシリーズの第 1 作目，*My Opinions and Betsey Bobbet* (1873) を取り上げた。同作品については，女性の社会的地位の向上を願う著者の意識の表れについて考察した。

また，Louisa May Alcott については，*Work: a Story of Experience* (1873) という，主人公の Christy がさまざまな職業を経験しながら成長していく作品を研究した。この作品については，著者の仕事観，女性の自立に関する問題について掘り下げた。

さらに，「仕事 (work)」と「労働 (labor)」に関連する論文，ジェンダー論などの理論に関する研究書の読み込みを行った。

本年の 8 月にはアメリカのボストンとニューヨークを訪れ，両作家に関する資料収集を実施した。特に Louisa May Alcott については，ボストンの公共図書館およびハーバード大学の図書館において，著者の直筆原稿や日記などの資料を手にとって研究することができた。また，同作家の故郷であるコンコードというボストン近郊の町へ行き，生家や資料館の見学も行い，今後の研究にとって有意

義な成果をあげることができた。

さらに、日本アメリカ文学会の年度総会や日本マーク・トウェイン協会の年度総会といった場で、本研究に関連する他研究者の研究発表を聴講したり、研究に関する意見交換をしたりすることにより、自身の研究の参考となるものを得ることができた。

3. まとめと今後の課題

本年度は Louisa May Alcott についての論文が大妻女子大学の「人間生活文化研究」電子ジャーナルに掲載された。Alcott が「仕事」というものに単なる「労働」以上の認識、自己実現的な意識を持っていたことが本年度の研究によって明らかになった。Alcott については *Work: a Story of Experience* 以外の作品にも同じような著者の思想が現れているかどうかについて研究を深めていく必要がある。

Marietta Holley については、*My Opinions and Betsey Bobbet* に関する論文を執筆中である。同論文はおもに女性の地位向上や権利とユーモアという側面から論じたものである。今後は Marietta Holley の仕事観や、主婦についての彼女の意識といった面からも研究を進めていくべきであろう。

さらに、今年度はあまり時間をかけることができなかった Elizabeth Stuart Phelps についての研究

を今後は進めていく必要がある。工場労働に従事する女性を取り上げた作品、*The Silent Partner* および、女性の仕事と家庭との両立に関する問題を取り上げた *The Story of Avis* を今後は読み解く予定である。

また、同時代の他作家による「仕事」に関連する作品研究を進めるとともに、ジェンダー論などの理論面からの研究を深めていく必要がある。文献については指導教官の指導を仰ぎ、進捗状況を相談・報告し、適宜、修正・見直しを行っていく。研究成果については論文や学会発表など、具体的な形で成果を残したい。論文の執筆方法などについても指導教官の指導を仰ぎ、よりレベルアップを図る予定である。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]杉山眞弓, *Work: A Story of Experience* における「作家業」の不在が意味するもの, 人間生活文化研究, 査読有り, 26号, 2016年.

②学会発表

[1]杉山眞弓, Louisa May Alcott の *Work: A Story of Experience* —— 「作家業」の不在が意味するもの, 大妻女子大学院生研究発表会, 2016年10月22日, 東京都・千代田区.